

長岡版イノベーションを推進



新潟県長岡市は中越地域に位置する県内2位の人口を有する都市。毎年8月2～3日に開催される日本三大花火大会「長岡花火」には多くの地元製造業が協賛し、打ち上げ前に社名を読み上げられているなど、地域に対する企業の想いは熱い。市内には4つの大学と1つの高専が立地し、産学連携の動きも活発だ。2025年に市内でおきた、モノづくり産業にまつわる動向をまとめた。

新潟県長岡市長・磯田達伸氏

産学官金が一丸となって、新産業の創出へ



昨今の産業界は、人材確保やAI・DXによる生産性向上、GXへの対応など多くの課題を抱えています。長岡市はこれらをさらに産業活性化に向けた好機と捉え、ものづくり企業の技術力と市内4大学・1高専の知識と人材を活かす「長岡版イノベーション」を推進しています。

長岡の新産業への機運の高まりは大手企業から注目されています。69の企業・機関が参画する長岡バイオエコノミーコンソーシアムでは、住友化学株式会社と連携し農業や食品加工業が持つ未利用資源の成分情報を可視化して、活用を志向する企業とのマッチングを始めています。

4大学・1高専の学生は起業意欲も高く、新規事業の立ち上げ方を学ぶ講座「リノベーション・プログラム」は7回目となった今年、受講者数が過去最高となり、本講座からの起業も累計で11社となりました。

人材活用面では、女性や高齢者、障害者、外国人など、多様な人材の雇用拡大の推進をはじめ、働きやすい職場環境と生産性向上のサポートを行う「ながおか働き方プラス応援プロジェクト」や、短期・単発の仕事のマッチング「ながおかマッチボックス」や、リモートワークで首都圏企業などに勤める「NAG AOKA WORKER」など、ライフスタイルに合わせて働き方を提案しています。

いよいよ来年秋には、市の産業部局や商工会議所、金融機関などの産業支援機関が入居する、人材育成と産業振興の拠点「米百俵プレイス東館」が完成します。企業支援にとどまらず産学官金が一丸となった新産業の創出に向けて、長岡市は挑戦を続けます。

NPO法人長岡産業活性化協会NAZE会長・大井尚敏氏(リオオイ社長)

デジタル活用でモノづくりの人手不足克服



日本海側随一の工業都市といわれる新潟県「長岡」。歴史のある鉄工・鋳物関連産業の基盤的な産業に加え、近年では電子・精密機械や液晶・半導体など高度な技術を有する多様な企業がハラスよく集まった「モノづくり」技術の集積地となっています。

NAZE(ナゼ)は、こうした製造業の集積を、生かす形で2005年4月に発足しました。今では製造業をはじめ、市内4大学・1高等専門学校(高専)、地元金融機関などからなる104の会員が有機的に結びつき、教育機関の研究成果を活用した産学連携事業や、さまざまな要素技術を持つ企業同士の結びつきによる新たな価値の創造にチャレンジしているところだ。

近年の人口減少社会では製造業においても深刻な労働力不足が大きな問題となっています。こうした中、NAZEは市と共同で製造業のデジタル化やロボットの導入支援、外国人材の活用による人材不足対策に取り組んでいます。

また、ロボット導入支援やロボットを活用する人材の育成を行い、モノづくり現場の省人化を支援しています。

外国人材活用事業としては、モンゴル国内の3つの高専の支援校でもある長岡高専と連携し、モンゴル高専生から実際に市内企業で働いてもらうインターンシップを実施しています。

昨年創立20周年を迎えたNAZEは、今後もこうした製造業のデジタル化支援やデジタルツールを活用した改善活動を行える人材の育成、外国人材を活用する事業を市の施策と一緒に進め、深刻な人手不足を克服し、長岡モデルで新たな価値を創出してまいりたいと考えています。

NAZE20周年記念事業

2025年度に20周年を迎えた長岡産業活性化協会NAZE(ナゼ)、大井尚敏会長(リオオイ社長)は、今年度記念事業としてさまざまな事業を展開した。

同団体は、中越地域の製造業や大学、金融機関、情報系の企業で構成。行政や商工会議所などの支援機関が組織を後押しする。現在の会員数は104社。

6月にはジャーナリストの門田隆将氏を迎えた20周年記念講演会を開催。歴史の岐路に立つ日本をテーマに、緊迫化する世界情勢に晒される日本国民がすべきことなどについて講演。参加した150人は門田氏の講演に聴き入った。

8月には、THE T W Oの高野宙社長と、フリーランス撮影監督の大西健之氏を迎え、2日間 にわたり動画製作ワークショップを開催。スマートフォンなどを活用した基本的な撮影、編集スキルの習得や仕上げに差が出る演出のテクニックについて学んだ。

このほか、ゴルフコンペや20周年を記念する企業ガイドブックを作成。次の20年を見据えた企業支援に弾みをつけた。

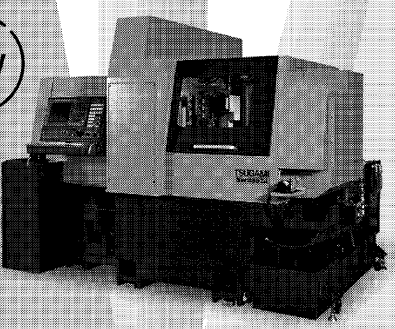


NAZE20周年 門田隆将氏講演会

PRECISION TSUGAMI

NEW

ツガミは継承技術と革新技術を融合し明日をリードする工作機械を提供いたします



CNC精密自動旋盤 BW389ZJ
3つの独立した刃物台により、多彩なオーバーラップ加工が可能な自動旋盤のφ38mm仕様

本社: 〒103-0006 東京都中央区日本橋富町12番20号 TEL: 03-3808-1711
長岡工場: 〒940-8630 新潟県長岡市東蔵王1丁目1番1号 TEL: 0258-35-0850

株式会社 ツガミ

ものづくりのスペシャル集団 NAZE

4大学1高専の研究成果と企業のとがった技術で、イノベーションを起こします!

NAZE
Nagaoka Activation Zone of Energy

NPO法人 長岡産業活性化協会NAZE
〒940-2127 新潟県長岡市新産4-1-9
NICOテクノプラザ内
TEL 0258-42-8700 https://na-ze.jp

安心と感動に満ちた世界と未来のために

日本精機株式会社
〒940-8580 新潟県長岡市東蔵王2-2-34
TEL 0258-24-3311(大代表) FAX 0258-21-2151
www.nippon-seiki.co.jp

JPC株式会社 http://www.jpc.co.jp/
JAPAN PRO COMPUTER SYSTEM CO., LTD.

私たちは「感謝」を大切にします。
めまぐるしいスピードで製品・技術開発が進むなか、他業種に渡る総合的な技術領域をカバーいたします。

お陰様で20周年を迎えました。

会社概要
◆代表者 吉原 誠
◆資本金 3,000万円
◆事業内容 産業機械の設計並びに製造開発、システムエンジニア・プログラマー業務請負、システム開発・ネットワーク構築、技術者派遣事業、施工管理業務、一般派遣業等
◆拠点 本社、新潟営業所、システム開発事業部、CM事業部、派遣事業部、長岡工場(設計・組立)、機械加工工場

JPC株式会社
〒940-2023 新潟県長岡市蓮沼町字五郎作428番15
TEL.0258-89-7577 FAX.0258-89-7578

人と技術をつなぎ未来を創る

自動化・省人化をご提案いたします

昭栄産業株式会社
人・技術・未来
本社HPはこちら

長岡支店 〒940-0897 長岡市新組町2239番地1
新潟本社 〒950-0915 新潟市中央区鏡西2丁目29番12号

MACHINE&TOOL FUCHIMOTO

Challenge to Only be chosen
おかげさまで創立76周年

機械工具の専門商社
株式会社 淵本鋼機

〒940-0046 新潟県長岡市四郎丸4-7-12
TEL:0258-35-1313 FAX:0258-33-2447
URL:http://www.fuchimoto.co.jp
営業所/三条・上田・南信(箕輪町) 駐在所/バンコク

SYSTEM SQUARE 世界へ挑戦

複合検査機

見えないモノを見るチカラ

株式会社 システムスクエア
本社 〒940-2121 新潟県長岡市喜多町金輪 157
TEL: 0258-47-1377(代) FAX: 0258-47-0161
https://www.system-square.com

新産業の創出へ、気運高まる

長岡高専×地元企業 キャリア教育で企業訪問

多くの企業が理系人材の採用に苦戦する中、中小企業は大手に比べ知名度の点でさらに不利になることも多い。一方、教育機関においては、学生が自身の進路については主体的に考えられるような教育に力を入れ始めた。長岡工業高等専門学校は、新潟県と長岡市、小千谷市と連携し、地元企業を巻き込んだキャリア教育を行っている。

同高専では低学年からのキャリア教育に特徴がある。新設科目の「キャリアデザイン」では産業界の動向を学んで高専と社会の繋がりを理解し、「アントレプレナーシップ基礎」ではビジネスに関する知識を学んでビジネスプランニングに取り組む。キャリア教育の重要なイベントとして、3年生全員が参加する「工場見学」がある。早い段階から学生と地元企業の関わりをつくることで、生徒が自身のキャリアに意識を向けるよう働きかけられている。

9月22日、長岡高専3年生の200人あまりは、新潟県長岡市と小千谷市の企業などを見学した。各学科2グループに分かれ、貸し切りバスを用いて3カ所ずつ回る。1日がかりの大規模なイベントだ。

外山茂浩副校長は「生徒たちは地元企業のことを意外と知らない。見学会で自分が学んでいることが未来にどう役立つのかを知る生徒も多い」という。そして「働いている人たちの姿を見て、将来、自分が働く姿が想像できる」と語る。

見学会実施には新潟県と長岡市、小千谷市も協力している。地元就職支援の一環として、見学先企業の選定は高専の要望を聞きながら自治体が行っている。

担当は、企業の情報をもとめたワークシートの準備、企業訪問時のマナーに関する動画の作成、見学会終了後のアンケートなどの準備も行い、万全の体制を築いている。

見学の1つで、食品などへの異物検査機器を製造するシステムスクエア（新潟県長岡市）には、電子制御工学科の生徒が訪れた。事業概要の説明を受けたあと、2チームに分かれて社内を見学。同社の本社は2019年に刷新された。新たな社内では重層の会議室を設けたり、部門ごとに照明の色を変えたりと、働きやすさや居心地の良さを重視した作りとなっている。

機器の説明や、見学の質疑応答には長岡高専OBの従業員も参加。学生からは、製品についての質問や、入社してから印象的だった仕事についてなどの質問が上がった。学生たちは自身が働く様子を想像しながら見学できたようだ。システムスクエアの担当者

は「毎年興味を持ってもらい、生徒からは質問も沢山ある。自分の卒業したあとの働き方を想像してもらえているのでは」と考える。工場見学を受け入れる理由については、自社への高専生の就職が叶えば嬉しいとしながらも、「長岡は他県と比べても優秀な企業が多くある。技術の追求や、新しいモノを生み出せる環境があるのだから、知ってもらいたい」と語る。

外山副校長は「高専の5年間は長い。自分が学んでいることが何に役立つか分からず、中だるみを感じてしまう学生もいる」と指摘し、キャリア教育の重要性を訴える。生徒が納得できる自身のキャリア像を描くことができれば、その実現のために進ずるか就職するかどうか、そしてその会社を就職先に選べるだろう。

長岡高専発企業が活躍 新潟初グロース上場 スタートアップ支援事業に選定

長岡市 35年に製造品出荷額1兆円に

長岡高専の卒業生による活躍が相次いでいる。創業者・会長が長岡高専OBのフラーは7月、新潟県に本社を置く企業として初めて東証グロース市場に上場した。高専出身者が社員の2割以上を占め、「高専のフラー」というブランド力を強みに人材採用を強化中。新潟県政の重要課題の一つは若者や女性の県外流出だ。渋谷修太会長は上場時の会見で「仕事があれば地元に戻ってきたかった」という若者の声を聞く。

（新潟県）本社を置くことは非常に意味があると語った。人材の定着の手段となることが期待されている。

12月初旬に東京都で開かれたロボット見本市「2025国際ロボット展」では、農林水産省ブースに出展。同社の既存のロボット機能を進化させた「親子式」と呼ぶ機種を展示した。農家の移動を補助するロボットで、夜間稼働など省人化がさらに進めやすくなる。展示は海外からの来場者の注目を集めていた。山岸社長は「ロボットを沢山の人の目に届くことで、採用にもつながると語った。

長岡市は2033年度をめぐって、市内で生産された物品などの出荷額を指す「製造品出荷額等」を、23年度実績の7124億円から1兆円に引き上げる。2026・35年度の次期総合計画に盛り込む予定。製造品出荷額等の数値は翌々年度に発表されるため、35年度に発表される33年度の数値で1兆円達成を目指す。

製造品出荷額等の数値を上げるには、生産活動を活性化させることがもちろんだが、原材料費やエネルギー価格上昇に伴って適正な値上げが実施されることも重要だ。市の担当者は「物価の上昇に伴って事業者が適切な価格改定を行えるように支援していきたい」と話す。

政策の一つ「強みを生かし未来を見据えたオール長岡による産業振興」では、強みであるバイオマス資源の活用を加速する。同市では既に、産学官が参加するバイオエコノミコンソーシアムや、市の運営する生ごみバイオガス発電センターなど、バイオ資源を活用するための土壌は整いつつある。バイオ資源を活用した新事業創出支援として、総合計画期間内に30件の支援事業を行うことを重要業績評価指標（KPI）に設定した。長岡市バイオ革新のつくり出し補助金などを積極的に活用する方針。

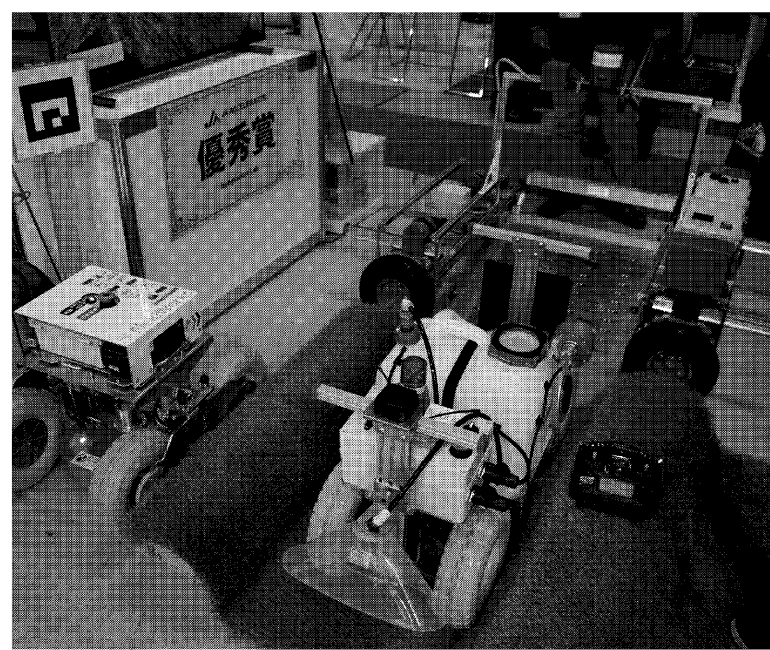
政策「誰もがキャリアを活かしたいときと働くための人の投資と産業集積の創造」では、起業支援プログラムに基づき事業構想から企業成長までの一貫した起業・創業支援を行う。国は6月、第2期スタートアップ・エコシステム拠点都市の「NEXTテローバル拠点都市」に新潟県と長野県のコンソーシアムを選定。起業家や投資家、企業、行政、教育機関などがつながりイノベーションを創出していく都市を目指すもので、同市もこれに参画した。起業支援センターの支援による起業件数実績は、14・24年度で303件。次期総合計画でも着実に進め、総合計画期間内に起業実績400件を達成する計画だ。

スタートアップ・エコシステム拠点都市の「NEXTテローバル拠点都市」に新潟県と長野県のコンソーシアムを選定。起業家や投資家、企業、行政、教育機関などがつながりイノベーションを創出していく都市を目指すもので、同市もこれに参画した。起業支援センターの支援による起業件数実績は、14・24年度で303件。次期総合計画でも着実に進め、総合計画期間内に起業実績400件を達成する計画だ。

同市は2033年度をめぐって、市内で生産された物品などの出荷額を指す「製造品出荷額等」を、23年度実績の7124億円から1兆円に引き上げる。2026・35年度の次期総合計画に盛り込む予定。製造品出荷額等の数値は翌々年度に発表されるため、35年度に発表される33年度の数値で1兆円達成を目指す。

製造品出荷額等の数値を上げるには、生産活動を活性化させることがもちろんだが、原材料費やエネルギー価格上昇に伴って適正な値上げが実施されることも重要だ。市の担当者は「物価の上昇に伴って事業者が適切な価格改定を行えるように支援していきたい」と話す。

長岡高専出身者数名が起業したFieldWorks（新潟県長岡市、山岸開社長）は、農業とデジタル技術を融合して諸課題の解決に取り組む「アグリテック」のスタートアップ。新潟県にいがた産業創造機構（NICO）、関東経済産業局によるスタートアップ支援事業「J-StartupNIIIGATA」にも選定された。



FieldWorksの農業支援ロボット

同社が手がけるのはラジコン式の小型農業支援ロボット。現在のラインアップは畝間の草刈りを行う「ウネカル」と畝間の薬剤散布を行う「ウネマキ」。作業者の負担軽減や、熟練度の違いによって発生するむらをなくす効果が期待できる。



長岡市

“にいがた”のモノづくりを牽引する 長岡市のエクセレントカンパニー

新潟産業人クラブ つなかる ひろがる

2025年度新規会員募集中!

新潟産業人クラブでは、8月から始まる2025年度の新規会員を大募集しています。毎月の月例会はもちろん、小グループ勉強会、工場見学会、ゴルフコンペなど、多彩な活動を展開しています。この機会にぜひご入会下さい!

新潟産業人クラブHP

Facebook

事務局 ☒ sentan@sentan.gr.jp TEL 025(233)3883 日刊工業新聞社新潟支局内

「円形じゃない」 それだけで世界が変わる

回転速度を変動できる「非円形歯車」は様々な機械の可能性を広げています 私たちは「歯車のプロ」として高精度・高機能歯車の受注生産を行っております

株式会社 長岡歯車製作所

〒940-1146 新潟県長岡市下条町777
TEL: 0258-23-3333 FAX: 0258-23-3335
[URL] http://www.nagaha.co.jp

MARUEI の研削盤シリーズ

CNC小型円筒研削盤 **NMG-150型**

CNC小型内面・複合研削盤 **NIG-300型**

CNC小型タレット型複合研削盤 **UMG-450型**

円筒研削盤 内面研削盤 各種研削専用機 自動化対応

研削盤のオールラウンドプレイヤー

株式会社 丸栄機械製作所

本社: 〒940-2022 新潟県長岡市鉄工町2-3-54
TEL (0258) 27-2774 FAX (0258) 27-6689
URL http://www.maruei-kikai.co.jp E-mail office@maruei-kikai.co.jp

富内工場: 〒940-1163 新潟県長岡市平島1-96
TEL (0258) 22-1480 FAX (0258) 22-0012